

風土を温める

あたた

シリーズ 高山の文化財⑬

【市指定史跡】

旧江戸街道

高山からの遠足のコースといえは、美女峠を思い出す方も多いのではないでしょうか。その道中、山口町の了心寺から水呑洞へ至る約六kmが、かつて高山と江戸を結んでいた江戸街道の一部として、高山市の史跡となつていきます。

美女峠の名称については、美しい尼僧がいたため、とする説もありますが、江戸時代の国学者である富田



昔のおもかげを残す江戸街道

禮彦は、郡の境界の上にある一帯という意味の「郡上塚」が訛つたものであるとしています。本来、峠の位置は美女ヶ池（見座沼、辻ヶ池）周辺ではなく、もっと広い地域を指していたようです。また、街道も国道三六一号ではなく、山の尾根を通っていました。現在、山道として残る部分は、冬季間の通行や木材の運搬に便利のように、U字型に掘られ植状になっています。

中

およそ四〇〇年前に高山に入った金森長近は三十一カ所の関を定め、美女峠を通るルートを重点的に整備しました。飛騨が幕府直轄地になつても江戸へ向かう重要街道とされました。江戸から来た代官・郡代は見下ろす高山の町にさまざまな想いを巡らせたに違いありません。そのほか、飛騨の運搬や善光寺への参詣道としても多くの人が利用しました。ちなみに、江戸時代に詳細な日本地図を作った伊能忠敬も高山から山口

を通り野麦まで測量をしています。

飛騨が明治四年に筑摩県に統合されると、この街道は県庁のある松本とを結ぶ幹線として使われ、順次整備されていきました。

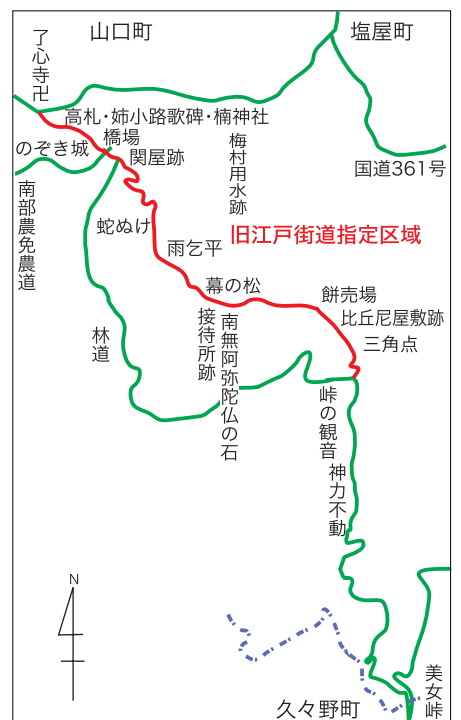
明治時代の中ごろには、多くの女性が多野野の製糸工場で働くため、この街道を往來していました。

このように時代の流れによって変遷を繰り返してきましたが、昭和九年の高山線全線開通のころから、街道としての使命は終わりを告げることとなります。

現在ではハイキングや、比丘尼屋



接待所跡のお堂
(昭和32年に旧河合村より移築)



敷跡や梅村用水跡などを巡る歴史に親しむ道として利用され、晴れた日には素晴らしい北アルプスの眺望を楽しむこともできます。山道は、地元のみならず、元々の山口史跡保存会により草刈りや整備などが行われ、歩きやすくなっています。また、文化財めぐりウォークラリーのコースが設定されていますので、ぜひご利用ください。

市指定 昭和三十三年八月二日

時代 江戸く明治

所有者 高山市(市道)

管理者 山口史跡保存会

ウォークラリーの用紙は、文化財保護課(市役所3階)および図書館にあります。

毎年七月初旬に接待所跡で江戸街道の山開きが行われます。※今年は七月三日(土)午後二時三十分